

みんなで考える アニマルウェルフェア を普及させるための第一歩！

シンポジウム

×

ワークショップ

全3回講座

第3回【企業との対話】

畜産物

×

倫理的消費
(エシカル)

【第3回】

2021 12.18 (土) 13:00 開始



参加費無料

<対面+オンライン>
ハイブリッド開催

対面 会場:信毎メディアガーデン 定員20名
松本市中央2-20-2 (松本駅から徒歩約8分)

配信 Zoomミーティング 定員100名

※いずれも事前申込が必要です。

※新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染状況により、オンライン配信のみの開催に変更させていただく場合があります。

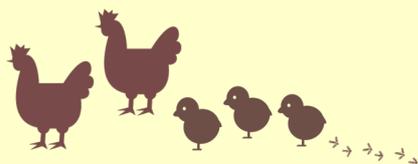
アニマルウェルフェア(Animal Welfare)の考え方を国内で浸透させるためには、消費者の皆さんの理解が不可欠です。アニマルウェルフェアに配慮して生産された畜産物の購入、消費はエシカル消費につながります。日本でのアニマルウェルフェアを実施するための解決策を市民の視点で考えていきます。

タイムライン

<第1部> 13:00~ 挨拶・趣旨説明・振り返り
13:20~ 業界団体・企業の取り組み紹介
★Jミルク ★味の素 ★NEC通信システム
<第2部> 15:00~ ワークショップ
※対面のみ 16:30~ 総評

★当日お車でお越しの対面参加者の皆様に
松本市営駐車場の無料駐車券(5時間分)
を配布いたします。

★第3回
参加申込は
こちら➡



開催趣旨

アニマルウェルフェア(AW)とは、「動物の生活や死(食用目的のと殺や疾病管理目的の安楽殺)という状況における動物の肉体的および精神的状態」と国際的に定義されています。人類による動物利用(家畜、実験動物、展示動物、伴侶動物など)を認めつつも、前述の状況に際して、可能な限り苦痛を排除しようとするものです。国連食糧農業機関(FAO)でも、持続可能な家畜生産の手法の一つに、アニマルウェルフェアを位置づけ、アニマルウェルフェアへの対応は世界的な流れになっています。農林水産省では、アニマルウェルフェアに配慮した家畜飼育を推進すべく通知が発出されているところです。

このような社会背景の中、すでに外資系食品メーカーのうち数社は、アニマルウェルフェア畜産物の利用を表明しており、日本においても同様の対応を取ることになっています。国内食品企業でも、自社で取り扱う畜産原材料に対して、アニマルウェルフェアの重要性を示し、アニマルウェルフェアに配慮された畜産物を扱うことを表明し始めました。

先日開催された東京オリンピック、パラリンピック大会における「持続可能性に配慮した調達コード」では、畜産物の調達基準にアニマルウェルフェアの考え方に対応した飼養管理指針に照らして適切な措置が講じられていることが義務付けられました。このような畜産物利用に際してのSDGsの視点は、日本の食品企業での取り組みにも影響を与えています。既に、食品企業の数社は公式Webサイト上でアニマルウェルフェアへの取り組みを宣言しています。また今後は、フードサプライチェーンにおけるアニマルウェルフェアの管理体制も求められるでしょう。

しかし、アニマルウェルフェアに関する消費者の認知度は低く、アニマルウェルフェア普及のためには、生産段階における取り組み以外にも、様々な立場の皆さんとの相互理解と協力が必要です。本ワークショップでは、関係する方々のお話を聞き、アニマルウェルフェアを長野県、ひいては日本全国に普及、浸透させるためには何をすべきなのかについて、市民の皆さんと一緒に考えていきます。

発起人



信州大学農学部 竹田 謙一

2000年信州大学農学部助手を経て、2008年より准教授。この間、山梨県酪農試験場客員研究員を併任。専門は、応用動物行動学、家畜管理学。動物福祉(アニマルウェルフェア)に配慮した家畜の飼養管理に興味を持って、研究を進めています。

参加申し込み 参加費無料

<会場での参加>および<オンラインでの参加>ともに、下記の専用申し込みフォームまたはWebページから事前申し込みをお願いします。当日に関する詳細情報は申し込み後にメールにてお知らせします。

専用申し込みフォーム

<https://forms.gle/dVrxNKGmkNDsTtvu5>

Webページ

<https://www.shinshu-u.ac.jp/project/livinglab/>



みんなで考える アニマルウェルフェア を普及させるための第一歩!

プログラム (全3回講座)

- ★第1回【生産者との対話】 9月23日(木・祝) **終了**
- ★第2回【消費者との対話】 10月30日(土) **終了**
- ★第3回【企業との対話】 12月18日(土)

第3回 予定表

<第1部>

13:00 - 挨拶・趣旨説明・振り返り

13:20 - 業界団体・企業の取り組み紹介(各25分)

★「酪農乳業の持続可能な取り組みについて」
一般社団法人「ミルク」

★「味の素グループのアニマルウェルフェアの取り組み」
味の素株式会社

★「ITが作るアニマルウェルフェアの未来」
NEC通信システム

<第2部(対面のみ)>

15:00 - ワークショップ

アニマルウェルフェアを国内で浸透させるために何が必要となるのか、課題抽出と解決策を参加者の皆様と一緒に考えます。

16:30 - 総評

※以上は予定につき、変更になることもございます。
詳細につきましては参加者の方にあらかじめご案内いたします。

お問い合わせ

信州リビング・ラボ事務局 <担当・三宅>

〒399-4598 長野県上伊那郡南箕輪村8304

信州大学農学部 産学連携室

TEL: 0265-77-1648 FAX: 0265-77-1644

E-mail: miyake_seiji@shinshu-u.ac.jp



主催

信州大学 農学部
信州大学 学術研究・産学官連携推進機構 信州リビング・ラボ事業

共催

アニマルウェルフェア飼育技術(牛)コンソーシアム
「知」の集積と活用場® 次世代家畜生産の研究開発プラットフォーム

後援

長野県
伊那市
信濃毎日新聞社
公益財団法人 農村更生協会 八ヶ岳中央農業実践大学校
信州地鶏を語る会
一般社団法人 長野県畜産会
伊那谷アグリイノベーション推進機構

